

北海道山紀行・2017

● 6月22日（木） 出発・新潟からフェリーで北海道へ向かう

・新潟港から新日本海フェリーで北海道の小樽へ向けて出発するのだが、新潟港出港が朝9時半のため、毎年我が家を前の晩の10時～11時に出発し、夜行で新潟へ向かっていた。途中で何度も休憩・仮眠しながらのんびりと走行し、翌早朝5時頃に新潟港に着くのが定番だった。夜行は道がすいているし、涼しいし、新潟近くになって空がだんだん白んでくる中を走るのはなかなか楽しいものだった。

・新日本海フェリーが今年の春に新造船「らべんだあ」を就航させた。是非乗ってみたいと思い往路は「らべんだあ」にしたら、この船スピードが速いため今までよりも2時間以上も遅い、朝11時45分に新潟港を出港することになった。そうすると夜行で行く必要が無くなり、我が家を早朝に出ても十分間に合うようになった。ETCの深夜割引を利用するためには4時前に厚木インターに入ればいい。

○ 早朝3時15分、愛車RAV4で我が家を出発した。空は白み始め天気は良さそうだ。一階のソファで寝ていた朋子が見送ってくれた。厚木インターから圏央道に乗ったが、車は殆ど走っていない、ガラガラ。4時40分、すっかり明るくなった上里SAで一休み。ちょっと休んで出発したら、突然睡魔が襲ってきた。赤城高原SAに緊急停車し仮眠。関越トンネル走行中にまたもや睡魔が襲ってきたので塩沢石打SAに入って仮眠。こんなことを繰り返しながら8時に新潟西ICで高速を下りた。ちょうど通勤時間帯、予想通り道路が渋滞している。いつものセブンイレブンで乗船中の食料などを購入して8時半過ぎに新潟港に到着した。天気は晴、暑い。まだトップシーズン前だから乗客は少ないのだろう、10台目位に並んだ。

・ターミナルレストランでいつものトーストセットの朝食をとり、退屈な乗船待ちの時間を過ごす。

11時15分に乗船開始。新造船「らべんだあ」のステートAツイン、5F・5004室のカギを受け取った。

ツインベッドにテレビ、トイレ、シャワーも付いている、トイレ、シャワーの無い旧船のステートBツインに比べて少し高いだけのことはある。ベリーグッド！



・いつものようにまず風呂へ急ぐ。風呂は6Fにあり展望浴場で露天風呂まである（停泊中は使えないが）これまたすばらしい。入浴者は殆どいないので貸し切り状態でのんびり疲れを癒した。

・船は定刻の11時45分に新潟港を離れて小樽に向かった。後部デッキでだんだん遠くなって行く新潟の街を眺めながら風呂上がりのクラシックを飲み、部屋に帰って15時過ぎまで熟睡した。



・この船にはホールが無いらしい。4階のエントランス広場でデュエットの演奏が始まった。見たことのない歌手だったがそれなりに上手かった。ただ音響設備が悪くて気の毒、マイクを使わない方が良くないかな。ホールが無いということは映画上映はやらないのかな。また給湯室も無い。インスタントラーメンなどは部屋のポットの湯を使うのだが、部屋の無いごる寝の客の湯はどうするのか。



・夕食は7時にレストランへ。期待外れでメニューは少ないし売り切れも多い。仕方なく「道産牛の煮物」と生ビールで済ませ部屋へ戻ってインスタント・フォーを食べた。やることないので9時に就寝した。

● 6月23日（金） 恵庭岳（1319.7m） 晴

・予定通り早朝4時半に小樽湖に入港。このところ毎年雨の小樽港上陸が続いたが、今日はすっきり晴れている。フェリーターミナルで朝の支度を整えてから今日の予定をたてた。積丹岳に登ろうか、恵庭岳に登ろうか思案したが、積丹岳は去年も登っているの恵庭岳にしようと決めた。



・小樽から札幌へ向かって走るとすぐに霧が立ち込め、札幌の街は霧の中の走行となった。こりゃ天気が悪いかな、といやな思いを抱きながら札幌市街を抜け国道453号線を南下し支笏湖へと向かった。支笏湖の北の峠を越えて下り始めると、なんと！霧がスカッと晴れて目の前には岩峰を青空に突き出して美しく聳える恵庭岳が現れた。

・7時15分に登山口駐車場に到着。きれいに整備された広い駐車場が用意されていた。私と同時に2台の車（札幌ナンバーと奈良ナンバー）が到着して、それぞれ男性がさっさと登って行った。私はゆっくり準備を整えて7時40分に登り始めた。



・明るい樹林帯をしばらく登ってゆく。足元にはズダヤクシュやマイズルソウがチラホラ咲いているが意外に花が少ない。

・トドマツ林の長い九十九折りを登ると涸れ沢に出て、ここからはガレ場の急坂が続く。途中何度もロープにしがみついて登るなにしろひどい道だ。行けども行けども急坂のガレ場が続く、もう止めてくれ！と思った頃やっと7合目展望台に着いた。

・足元には美しく広がる支笏湖が、振り返って見上げれば青空に聳える恵庭岳の眺めがすばらしい。



・ゆっくり景色を楽しみながら休んでいると札幌ナンバーの男性がもう下って来た。「山頂まで行ってきたのですか」「ああ、行ってきましたよ」と、さっさと下って行った。



・ここからはガレ場の急坂は無くなり歩きやすくなった。身体もなんとか調子が出て来て、30分ほど登ると現在の仮山頂（第2展望台）に着いた。ここから先は通行禁止でロープが張ってあり、古くて端が欠けている「恵庭岳山頂（1319.7m）」の名板が掛っている。

・現在10時40分。さっさと山頂まで行ってこようと、ザックを岩陰に置いて空身で通行禁止ロープを跨だ。（このロープも今にも朽ち果てるように古い）

・どんな危険な道なのかと不安を抱きながら歩いたが、道はしっかりとついていて危険箇所にはロープが張ってあり、立派な登山道だ。目の前に岩峰の山頂が迫る。



・道は岩峰の裏側に回り込みよいよ岩場の登りとなる。眼下にオコタンペ湖が見た。すばらしい！最後の山頂への岩峰は20m余だが岩がもろくて危険だったが要所にはロープが張ってあった。

- ・ 念願の山頂（1319.7m）に立った。
狭い山頂に立派な祠が建っている。

- ・ 10時を過ぎるとさすがに雲が湧いてきて時々視界が無くなる。記念写真を撮ってからさっさと下山した。脆い岩場で下りも慎重に下った。
- ・ 仮山頂(第2展望台)から山頂まで往復したが、仮山頂を出てから戻るまで約1時間だった。



- ・ 第2展望台に戻ると数パーティーの登山者が休んでいて混雑していた。
- ・ 皆さんここで引き返すのかな、私だけ通行止めを無視した無謀登山をしたことになるのかなと思ながら昼食を摂っていると、なんと皆さん当然のように停止ロープを跨いで山頂へ向かって行くではないか。なんだ、今ではもう山頂まで行くのは当たり前になっているのか。あらためて認識した。

- ・ 下りがまた大変。ガレ場には上りとは別に下りコースが設定してあり、ロープにしがみつきぶら下がりながらの長いガレ場下りで疲労困憊。そのあとの道も石がごろごろで歩きにくい。「いいかげんにしてくれ！」と叫びたいような下り道。トドマツ林に入ってやっと普通に歩けるようになった。午後2時前に無事下山した。



- ・ 山頂までの往復は、無謀登山をしたような後ろめたさが若干残るが、みんな入山禁止を無視して山頂へ向かっている現状を見て少しは救われる気になった。

花は意外に少なく、イワヒゲ、イワウメ、シラネアオイ、ズダヤクシュ、マイズルソウ、タニギキョウ、エンレイソウ、ウコンウツギ、タニウツギ、オオバタケシマランを見たが、ツバメオモト、キバナスミレなどはもう終わっていた。

- ・ 砂埃と汗を早く流したい。恵庭の「ラフォレ」へ急いだ。相変わらず良い風呂だ。ゆっくり疲れを癒しさっぱりした。セイコーマートでつまみを買って道の駅「えにわ」へ。

今年の3大目標の一つを初日に無事達成できて大満足。
良い気分です寝